

2017-8年度事業報告(2017年10月1日～2018年9月30日)

**A. はじめに**

**B. 人材育成(人づくり)事業**

1. 勉強会「てらこや」
2. 講師・ファシリテーター派遣
3. ニュースレター「かわらばん」

**C. 研究(知づくり)事業**

1. 研究者との連携

**D. 実践(場づくり)事業**

1. 国際協力
2. 地域医療支援
3. 他 NGO などとの連携

**E. 事務局業務**

1. 事務局運営
2. 広報
3. 会員

**F. 会計(収支計算書も参照)**

## A. はじめに

2017-18 年度は、海外プロジェクト立ち上げに向けて助成金申請に挑戦したが、採択には至らなかった。一方、勉強会を継続するとともに、ニュースレターの創刊ほか広報の見直しを行った。

広報の見直しの一環として、法人パンフレット修正を行い、BiPH のミッションである 3 つの架け橋を「科学と社会」「専門職と一般の人びと」「地域と世界」をつなぐこと、活動を「知づくり」「場づくり」「人づくり」として整理し直した。この報告もこれに沿って記述する。

## B. 人材育成(人づくり)事業

### 1. 勉強会「てらこや」開催

原則として奇数月第4金曜日、昭和生涯学習センターでの開催を継続し、開催後には、法人サイトとFB ページで内容を広報している。(実績は表1参照)

### 2. 講師・ファシリテーター派遣

国際リハビリテーション研究会よりの依頼を受け、2018 年 9 月 7 日(金)に開催の「国際リハフェス 2018」への話題提供者、モデレーターを派遣した。(表2参照)

### 3. ニュースレター「かわらばん」発行

2018 年 1 月に創刊号、7 月に第2号を各4ページで発行した。

## C. 研究(知づくり)事業

### 1. 研究者との連携

BiPH が調整業務を担当した、連続公開講義・セミナー「健康をささえる社会のしくみを考えよう」(2016 年 12 月 18 日～23 日、名古屋市立大学看護学部・アジア保健研修所・JICA 中部国際センター共催)の資料集を BiPH の編集・発行で発刊した。

## D. 実践(場づくり)事業

### 1. 国際協力

トヨタ財団・2018 年度国際助成プログラムの C. オープン領域に「『日常保健データ』に基づくプライマリ・ヘルス・ケア - ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現に向けた学び合いと価値の共有」の課題で応募したが、採択には至らなかった(採択率 4.5%)

JICA 草の根技術協力支援型への申請を予定していたが、NGO-JICA 協議会などで、2018 年度公募は、JICA の事情により 10 月の 1 回のみとなり、採択されても実施は 1 年後であるという情報を得たため申請を見合わせた。将来の応募を前提とした「NGO 向け事業マネジメント研修」への参加申込に変更した。(参加は 2018/19 年度)

### 2. 地域保健医療支援

2014 年 8 月 5 日付で交わした法人委託契約について、2018 年 3 月 31 日に 3 度目の更新を行ない、週半日の地域医療連携室への医師派遣を継続している。老人ホームと在宅の訪問診療が主な業務になっている。

### 3. 他 NGO などとの連携

2018年7月12日18:30-20:30(於 JICA 中部)に行われた「中部 NGO-JICA 中部 第6回地域協議会」に石本が参加した。

2018年9月7日(金)・8日(土)に、国際リハビリテーション研究会との共催で「国際リハフェス2018」を開催した。7日は18:00-20:00(於名古屋市立大学看護学部)に、リハビリテーション分野の国際協力についてのナイトセミナー、8日(土)は公財)アジア保健研修所へのスタディーツアーを企画、実施した。(表2参照)

## E. 事務局業務

### 1. 事務局運営

2018年1月に登記住所である以前の事務所に戻った。1室を専有し、トイレ、洗面所、台所を共有で賃借することになった。家賃(光熱費込み)21,600円(消費税込)、電話・インターネットは共有(電話番号は別、母屋での発信はなし)で料金はBiPH負担となった。

事務局は、引き続き、樋口倫代と石本馨2名で運営している。樋口は木曜日午後(事務局)、土曜日午前(愛知国際病院への派遣)の勤務となっている。石本は、月曜日午後と木曜日の勤務で、広報、渉外、経理、庶務など事務局業務全般を担当している。

経理、納税は、決算期のみ松坂税理士事務所への相談を行っている。法人登記関係については、必要時のみ平良一器司法書士のアドバイスを受けている。

### 2. 広報

引き続き、「大学病院医療情報ネットワーク研究センター(umin)」のホームページサービス上の無料サイトを利用している。ウェブサイトと連動させてフェイスブックページも継続している。

広報の見直しにより、今期および来期前半でウェブサイト的大幅改訂を行うことになり、株式会社プロテックに本年度分を発注済みである。

法人パンフレットは2018年8月に改訂版を100部印刷した。

### 3. 会員・寄付

2017-18年度末で個人正会員27人(うち終身会員4人)、個人賛助会員3人、団体会員3団体である。新規入会は2件あった。

会費以外に、5名より合計43万円の寄付をいただいた。

## F. 会計(収支計算書も参照)

2017-18年度の収入総額2,142,409円、納税を除く支出総額1,224,753円であった。納税前収支差額は917,656円であった。納税額203,400円を差し引いて、決算額は714,256円である。今年度末の純資産合計は8,296,892円となった。

表1. 勉強会実績 於:昭和生涯学習センター 他

回	日時	内容 <sup>1)</sup>	参加人数	担当
1	2017/12/8	東ティモールスタディツアー報告会	7	井上蘭、吉江裕子(名古屋市立大学看護学部3年生)
2	2018/1/26	看護・医療職者の倫理を、国際研究とデュアルユース(軍民両用)から再考する	8	近藤麻理(東邦大学看護学部)
3	2018/3/23	バリアフリーのバリアって何だろう?	6	石本馨(NPO 法人作業療法支援ネット)
4	2018/5/9 <sup>1)</sup>	コミュニティ開発隊員がみた東ティモールの健康	16	長壁総一郎(元青年海外協力隊員)
5	2018/7/27	日本における国際協力 NGO—地域における NGO の関わり	5	林かぐみ(アジア保健研修所 事務局長)
6	2018/9/28	科研費研究から草の根事業へ、そして再び研究への展開—研究と現場をつなぐミクロネシアの肥満対策	8	水元芳(中村学園大学栄養学部)

1) 名古屋市立大学看護学部にての開催

表2:国際リハフェス2018 (国際リハビリテーション研究会との共催。協力:アジア保健研修所)

日時	テーマ、場所	内容、担当	参加人数
2018/9/7 18:00-20:00	ナイトセミナー「グローバルに Well-being を語るまい」 於:名古屋市立大学看護学部	障害分野の国際協力についてのディスカッション モデレーター:樋口倫代 話題提供者: 1. 浦山英明(愛知県精神保健センター) 2. 河野真(国際医療福祉大学) 3. 石本馨(BiPH)	31
2018/9/8 14:30-19:00	スタディツアー「国際 NGO に行こまいか」 於:アジア保健研修所	1. AHI 説明(AHI 林事務局長) 2. ILDC 研修生との交流会	14